

わが

つながりつなげる いろどりのまち かみのやま

上山市は、蔵王などの豊かな自然やおいしい食、温泉、上山城、歌人・斎藤茂吉などの地域資源や魅力がたくさん詰まった「宝箱」です。

果樹栽培が盛んで、サクランボやラ・フランス、干し柿など良質な農産物のほか、高品質なワイン



新しいワクワクが次々に生まれるまち

が特産品で、多くの方々から高い評価を得ています。まちなかでは、新たな食事処やワイナリーなどの个性的で魅力ある出店が増えているほか、マルシェなどのイベントも数多く開催さ

れ、訪れるたびに変化を楽しめる、「新しいワクワクが次々に生まれるまち」に変わりつつあります。
優れた地域資源をつなぎ、継承していくために

本年の4月に「第8次上山市振興計画」がスタートしました。将来都市像は「つながりつなげるいろどりのまち かみのやま」。日常生活にある「当たり前」が、実は貴重な地域資源であり、それに気づき活かす人も地域資源という考えの下、まちづくりに取り組む市民を増やし、つながりの輪を広げながら、さらに次の世代へ継承・発展させていくことで「彩り輝くまち」にしていくという思いを表しています。

まちづくりを「自分ゴト」として捉え、参加する市民を増やし、市民と共に創る「協創型のまちづくり」により、ほかにはない「価値を創造」し、市民の満足度を向上させることで「住むことが楽しいまち」につなげていきたいと考えています。市民と行政が一体となり、考え、行動し、市民全ての世代が「チーム上山」となり小さくとも少しずつ変化を起こしていきます。

将来都市像の実現に向け、行政が重点的に取り組む主要施策として、「教育」「健康」「まちづくり」の三つを掲げています。

子どもの可能性を引き出す 教育環境の整備

教育では、一人一人の成長に合った学びの場をつくり、子どもたちの可能性を引き出す取り組み



小中学生から英語に慣れ親しむ環境をつくる

の一環として、さまざまな事情で学校への行きづらさを感じている児童生徒たちが、自信を持って学べる環境を整えるため、令和7年4月に、県内初となる「学びの多様化学校」の開校を目指した準備を進めています。

また、グローバル社会で活躍するコミュニケーション能力を高めるため、市立保育園における英語教育推進事業を開始するほか、小中学校では、ALTや地域おこし協力隊に加え、英語教育コーディネーターなどを新たに配置し、小中学生から英語に慣れ親しむ環境を整

え、本市の魅力や英語で伝えることができる力を育成しています。

市民が自発的に取り組む健康づくりの推進

健康では、本市の健康事業の軸である「かみのやま健康ポイント事業」により、楽しみながら取り組む健康づくりを推進し、自らの健康管理や運動習慣の定着、さらには地域のヘルスリテラシーの向上を図るほか、勤務終了後に健康教室を開催するなど、働き世代が参加しやすい環境を整備します。また、地域の健康づくりを市民自身が担う「健康マイスター」を育成し、市民力を活かした健康施策を推進します。



歩いてかざしてポイントをためる「健康ポイント事業」



官民連携で整備する「(仮称) 駅東パークタウン」

また、疾病予防対策として、子宮頸がん検診および乳がん検診などに加え、新たにがん検診のスタート年齢である40歳の方へ市独自の助成を実施するとともに、糖尿病および高血圧症などの予防のための取り組みを継続することで、検診の動機付け、意識変容、行動変容を促しています。

協創で進める魅力あるまちづくり

まちづくりでは、かみのやま温泉駅東エリアにある工場跡地など

の低未利用地について、市民と検討を重ね「健康」「子育て」「交流」「環境」「景観」の五つの魅力を持つ「駅東エリア整備基本構想」を策定しました。エリア内には、官民が連携し、住宅地と公園が一体となった「(仮称) 駅東パークタウン」の整備を進めています。公園を活かした子どもから高齢者までが集い日常的なにぎわいが創出されるよう、市民と共に考えるワークショップを開催しながらトライア

プロフィール

- ◆ 面積 241 km²
- ◆ 人口 2万7836人
- ◆ 世帯数 1万1253世帯



上市市長
山本幸靖

〔将来都市像〕つながりつなげるい
ろどりのまち かみのやま
〔まちの特徴〕自然や果物、温泉、上
山城、歌人・斎藤茂吉など、地域資源
や魅力がたくさん詰まったまち
〔特産品〕ラ・フランス、ブドウ、サ



克蘭ボ、干し柿、ワイン など
〔観光〕上山城、斎藤茂吉記念館、春
雨庵、武家屋敷、榎下宿、蔵王高原坊
平 など
〔イベント〕上山市民俗行事 加勢鳥、
山形ワインバル、スマイルプロジェクト
ト☆かみのやま、けやきの森のおまつ
り など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

誇り高く 仁（ひと）を育み 挑戦し続けるまち

はじめに

足利市は、栃木県の南西部にあり首都圏へのアクセスが良好なまちです。南部に広がる関東平野では、渡良瀬川の清らかな水と豊富な日照に恵まれた肥沃な大地で、トマトやイチゴ、トルコギキョウなどの農作物が生産されています。



織姫山から望むまちなみ

また、春の大藤や冬のイルミネーションが世界的にも有名な「あしかがフラワーパーク」や、世界の首脳が集まるサミットでも振る舞われたワインを製造する「ココ・ファーム・ワイナリー」などの観光スポットや、歴

あしかが

史ある文化遺産を美しくライトアップし夜景観光として楽しむ「足利灯り物語」、足利の緑豊かな自然の中を駆け抜ける「Valo Ashikaga サイクルフェスタ」など魅力あふれるイベントで、来訪者を魅了しています。

歴史文化遺産の活用

本市は、室町幕府を開いた足利氏発祥の地であり、国宝「鐔阿寺」などの足利氏ゆかりの寺社や、日本最古の学校である日本遺産「史跡足利学校」、産業と縁結びの神様を祭る「足利織姫神社」など、本市ならではの歴史文化遺産が数多く残されており、大切に守っていくべき宝であると考えています。

さらに、足利学校で打たれたと伝わる、本市ゆかりの刀剣「山姥切国広」を新たな宝に加えること

ができました。刀工・国広の最高傑作といわれる希代の名刀で、国の重要文化財に指定されています。

前所有者さまの深いご理解のもと、「山姥切国広 縷縷プロジェクト」を立ち上げ、本年3月に公益財団法人足利市民文化財団において取得することができました。現在、令和7年2月に向け「山姥切国広 特別展」の準備を進めています。



史跡足利学校 学校門



刀剣「山姥切国広」

今後も、貴重な歴史文化遺産を大切に守り、生かしながら、観光誘客を図り、地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。

産学官連携による 教育DXの推進

DXは、持続可能な自治体運営のためにとても有効な手法ですが、この分野は、専門的な知識が必要とすることから、民間企業を持つ経験やスキル、スピード感を取り入れることが必要不可欠であると感じていました。

そこで、自治体DXを加速させ



教育DXに関する連携協定

一人に合った個別最適化した学び」と「利用者中心の教育環境」の実現に向け、『AIDドリル』や『採点業務支援システム』を小中学校に導入するとともに、株式会社セールスフォース・ジャパンの協力を得て、学習状況、成績などを可視化する「教育ダッシュボード」の運用も開始し、客観的な

るために、地元企業「AeroEdge株式会社」の役員にCIO補佐官に就任いただきました。豊富な経験に基づいた助言の下、「書かない窓口」や「オンライン申請システム」をスタートさせました。

さらに、史跡足利学校がある「学びのまち」ならではの取り組みとして、デジタル技術を教育分野にも積極的に展開するため、令和5年にデロイトトーマツコンサルティング合同会社、足利大学、AeroEdge株式会社と「教育DXの推進に関する連携協定」を締結しました。

データに基づく教育環境の改善と学力向上、自学自習の精神の育成を図っています。

スポーツによるまちづくり

まちに活気をもたらす、市民の一体感を生み出してくれるスポーツの力をまちづくりに生かすため、宇都宮ブルックス(バスケットボール)、宇都宮ブリッツェン(サイクルスポーツ)、栃木シティフットボールクラブ(サッカー)とそれぞれ包括連携協定を締結しました。子どもたちが試合を観戦し、さらに直接指導を受けるなど、心に残る素晴らしい体験をしています。

令和5年には、Vリーグ参入が決定したバレーボールチーム「レヴィス栃木」とホームタウンパートナー協定を締結し、本家でホームゲームが開催される予定です。スポーツの力が、将来を担う子どもたちの成長の一助になると信じ、市民と共に応援していきたいと思えます。

おわりに

私は、少子高齢化に伴う人口減少社会の中でも、まちづくりにおいて、「未来志向であること」と

「挑戦を続けること」を大切にしています。

本年4月、「子ども家庭センター」を立ち上げました。子育て世代に選ばれるまちを目指して、出会いから結婚、妊娠、出産、そして子育てまでの間、各種施策を展開し、切れ目なく支援していきます。

また、若手職員による少子化対策プロジェクトチームを組織し、地域アプローチの手法を深化させ、具体策の議論を進めています。

プロフィール

- ◆ 面積 177.76 km²
- ◆ 人口 14万573人
- ◆ 世帯数 6万3684世帯



足利市長
早川尚秀

〔将来都市像〕誇り高く、仁(ひと)を育み、挑戦し続けるまち足利。次代の子どもたちに、今の私たちがつなぐ未来。

〔まちの特徴〕足利氏発祥の地であり、多くの歴史文化遺産を有し、緑豊かな山並みと渡良瀬川の流れが美しいまち

企業立地を促進し産業振興を図ることは、雇用の創出はもとより、移住定住や地域経済活性化など、本市の活力を持続的に発展させる上で極めて重要です。そこで、新たな産業団地開発に向け、産業用地の確保に積極的に取り組んでいきます。

こうした未来志向の挑戦を続けることで、誇れるまち足利の実現に向け、全力で取り組んでまいります。



〔特産品〕「あしかが美人」ブランドの農産物(トマト、イチゴ、アスパラガスなど7品目)、ビール麦、大麦、トルコギキョウ、そば、ワイン

〔観光〕史跡足利学校、饗阿寺、足利織姫神社、あしかがフラワーパーク、ココ・ファーム・ワイナリー、栗田美術館

〔イベント〕足利花火大会、足利尊氏公マラソン大会、足利灯り物語、節分鑑年越

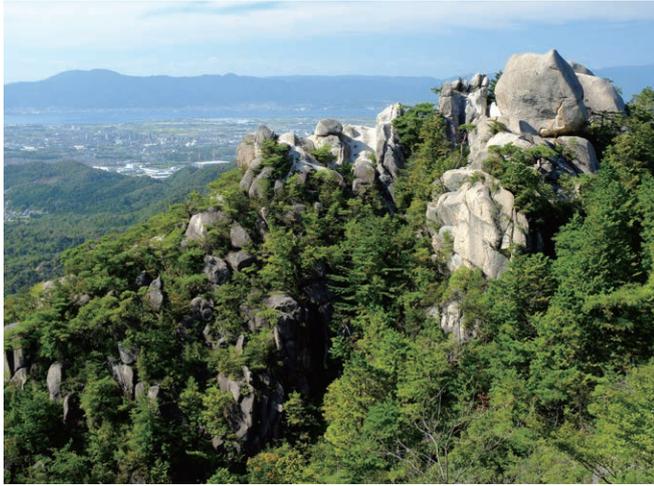
※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

うますぎる栗東 楽しいまちを創る!

まちから近い大自然

滋賀県の南部に位置する栗東市は、国道1号・8号の通過、名神高速道路栗東インターチェンジの設置により、古くから交通の要衝と



天狗岩

して発展してきました。製造業、流通業など数多くの企業が立地するほか、京阪神への通勤圏として、JR栗東駅周辺には多くのマンションや住宅が立ち並びます。これとは対照的に、市の南部には緑豊かな山地が広がり、約500〜600m級の山が金勝山系を形成しています。この金勝山系は「森林浴の森日本100選」に選ばれた自然と史跡の豊富な美しい地域で、ハイキングコースからは、自然にできた珍しい形の岩や国指定史跡の狛坂磨崖仏などを見ることが出来ます。私のおすすめは天狗岩。ここからは、琵琶湖や比良山系まで、雄大な景色を一望でき、圧倒的な自然の力を肌で感じることができ、一度は訪れていただきたい絶景スポットです。

近くには、森を活用した自然共生型アウトドアパークや、日本最大級の屋外型スラックラインパークがあり、令和5年3月には本市初のオートキャンプ場もオープンしました。市内には、思いつきり体を動かし、自然と戯れることができるアクティビティスポットがいくつもあります。都会の喧騒から離れ、ゆっくりとした時間を過ごしたい人には、コンドミニアム形式の宿泊施設「バンガロー村」がおすすめです。大自然に囲まれた中でアウトドアと美しい星空をお楽しみいただけると思います。このように、緑豊かな金勝エリアは、素晴らしい自然と景色を望むことができる、非常にポテンシャルの高い地域です。観光、スポーツ、教育などの拠点として誘

客が図れるよう、民間活力を導入し、ハード、ソフトを含めた再整備に取り組んでいきたいと考えています。

馬のまち栗東

本市には日本中央競馬会の競走馬を調教する栗東トレーニング・センターがあります。栗東トレーニング・センターは昭和44年に開場し、数々の名馬を輩出しています。

琵琶湖が滋賀県の象徴であるように、「馬」は栗東市の象徴で、本市の重要な地域資源の一つです。まちの魅力を高め、ブランド力をより一層強化していくためには「馬のまち」としての計画的・効果的なまちづくりを行うことが不可欠であり、その具現化のために取り組んでいるのが、引退競走馬を活用した栗東健康運動公園(ホースパーク)の整備です。

「栗東市民憩いの場の創設」「民間活力導入によるにぎわい創出」「馬を活かしたまちづくり事業の



栗東健康運動公園（ホースパーク）イメージ

実施「福祉、教育、商業・観光、環境、防災に資する取組みの実現」という四つのコンセプトの下、パーク内には「馬とのふれあい」「自然環境保全体験」「マーケット」をテーマとした三つのゾーンを設ける予定です。

本市の新たな拠点となる公園



馬のまち栗東

「ここにしかない」を生かすこと

に、地域の人たちが集い、緑に囲まれた環境の中で馬とふれあいや癒やされる。市民の健康や生きがいづくりの場となる。また、まだ全国的にも知名度が低い本市ですが、この公園をきっかけとして、多くの人を栗東に呼び込みたい。そんな思いを職員と共に語り共有しながら、令和12年度の供用開始を目指して準備を進めていきます。

市長に就任し、間もなく2年。これまで、平成19年の新幹線新駅の建設中止により悪化した財政

プロフィール

の健全化に向けた取り組みを進めてきました。一方で、克服しなくてはならない課題が山積していることも認識しています。次の時代に向けて、新しい政策にも着手していかなければなりません。政策実現に向けては、第六次栗東市総合計画により推進することを基本とし、社会経済情勢に目を配りつつ、前例踏襲主義を排除し、柔軟に、スピード感を持って取り組むことが重要だと考えています。従来の手法や価値観にと

らわれない行政運営により、本市の基盤、現況を俯瞰しながら、まちの特性、課題、強み、弱みを分析し、これからも「積極的に先を見据えた新たな時代の栗東づくり」を推進していきます。私は「ここにしかない」を生かすことが大切だと考えています。本市にしかない地域資源は、もの、人、こと、自然など多岐に及びます。これを最大限活用し、「楽しいまちを創る」ことに全力を注いでまいります。



栗東市長
竹村 健

〔将来都市像〕いつまでも住み続けたくなる安心な元気都市栗東
〔まちの特徴〕立地特性、自然環境、歴史文化などさまざまな面で恵まれた都市として、人口増加や産業立地が進

- ◆ 面積 52・69 km²
- ◆ 人口 7万397人
- ◆ 世帯数 3万87世帯



み、発展してきたまち
〔特産品〕栗東いちじく、目川ひょうたん、馬グッズ、まるっぼ豆腐、目川田楽
〔観光〕旧和中散本舗、金勝寺、狛坂磨崖仏、九品の滝、金勝山ハイキングコースなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

まちの歴史や文化、社会基盤を活かした 未来を見据えたまちづくり

福岡県の最南端、九州のほぼ中央に位置し、西は有明海、東は三池山などの低山に囲まれる大牟田市。鉄道や幹線道路、長崎との航路など公共交通アクセスが充実しており、九州一円どこからでも訪れやすく、またどこへ行くにも便利なまちです。

炭鉱の歴史と文化に触れられるまち

本市は、明治時代以降、三池炭鉱と石炭化学コンビナートの隆盛とともに発展を遂げ、日本の近代化に大きく貢献したまちです。世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である三池炭鉱宮原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡、三池港をはじめ、近代化の足跡を感じることで、産業界が数多く残っています。



世界遺産「三池炭鉱宮原坑」



おおむた「大蛇山」まつり

毎年7月には、筑後地区を代表する夏の一大イベントである、おおむた「大蛇山」まつりが開催さ

れます。長さ約10m、高さ約5m、重さ最大3tもある大蛇をかたどった何台もの山車が、火煙を吐きながら街を練り歩きます。

そのルーツは江戸時代までさかのぼり、300年以上の歴史があるとされており、大牟田の誇りとなつていきます。

災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくり

令和2年7月豪雨災害において、本市の道路は至るところで冠水し、家屋の浸水、がけ崩れなど甚大な被害を受けました。

発災直後から被災箇所の応急復旧を行うとともに、被災された皆さまが、一日も早く安心した生活に戻られるよう、できる限り市民に寄り添いながら被災者支援と復旧事業に全力を挙げて取り組みま

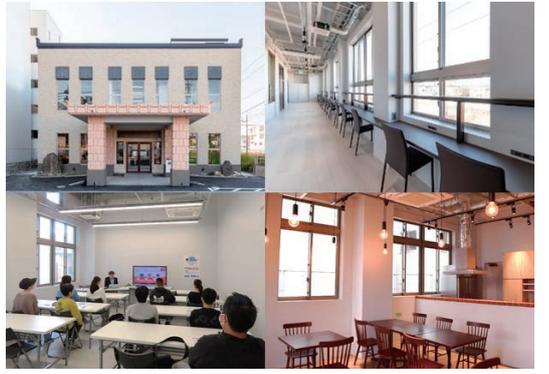
した。

現在においても、排水路の拡張や三川ポンプ場の耐水化と機能増強を図るとともに、防災専用の情報ネットワークシステムを新たに構築することによる災害対応力を強化、さらには、浸水マップの全戸配布による市民の防災意識の喚起などを行いながら、より災害に強いまちとなるための取り組みを進めています。

未来を見据えた産業の基盤づくり

本市は、かつては石炭産業を中心に発展し、現在も化学産業を中心に製造出荷額約3000億円（県内第6位）を誇る産業のまちです。

令和4年10月には、イノベーション創出拠点「aurea（アウレア）」がオープンし、積極的な誘致によりIT関連企業などが進出してきています。このaureaを核として、人や企業の交流促進やデジタル人材の育成、地域企業へのIT



イノベーション拠点施設「aurea」

導入支援などにより、新たな技術の導入や価値創造を通じた企業の競争力強化やさらなるイノベーションの創出に取り組むこととしています。

また、令和5年度には、九州新幹線大牟田駅の南側に、新たな企

業立地のための産業用地のほか、にぎわい交流用地を設ける産業団地の分譲を開始しました。これにより、新たな雇用の創出をはじめ、商業・サービス施設の集積によるにぎわいを創出し、新大牟田駅周辺をさらに魅力ある交通結節点にしていまいます。

「おおむたアリーナ」オープン

令和6年4月には、市中心部の延命公園エリアにおいて、「スポーツや運動を通じてひとを健康に、まちを元気にする緑に囲まれた総合体育館」をコンセプトとする新

がオープンしました。

スポーツを「見る」「する」「支える」に着目し、多様な利用者の視点に立ち、全ての人が使いやすい空間となっており、1500席を超える観客席を備え、トップレベルの公式戦の開催が可能となるアリーナをはじめ、多様なスポーツに対応した施設となっています。さらには、各種団体の全国大会や展示会などのコンベンションへの活用も期待されています。



令和6年4月にオープンした「おおむたアリーナ」

と健康づくり、そして、広域的なにぎわい交流拠点として、大きく生まれ変わろうとしています。

持続的な発展に向けて

本市をはじめ、多くの自治体に共通する課題である人口減少に対

応していくためには、国が進める子ども・子育て政策の抜本的強化に適切に対応するとともに、本市独自のさまざまな取り組みを進めることにより、次世代を育む若い世代の増加に向けて、若者が安心して働ける雇用の場を増やし、子育てや教育環境を充実させていくことが必要であると考えています。そのためにも、まち全体で子どもたちの成長と子育てを応援していくという思いを込めて、本年1月に

プロフィール

- ◆ 面積 81・45 km²
- ◆ 人口 10万5441人
- ◆ 世帯数 5万5241世帯



大牟田市長 関 好孝

〔将来都市像〕元氣あふれる安心快適な未来価値創造都市おおむた。有明海沿岸地域のリーディングシティ。〔まちの特徴〕九州一円どこへ行くにも便利で、炭鉱の歴史と文化に触れられる、人があたたかいまち



「大牟田市子ども・子育て応援条例」を施行し、結婚・妊娠から出産・子育てまで、切れ目のない支援の充実を進めています。市民の皆さまが安心して生活でき、市内外の方にとって魅力的なまちを創るとともに、将来を担う子どもたちやお孫さんたちが、この豊かな大牟田で安心して仕事をしながら生活できる未来を目指し、前進してまいりたいと考えています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。